

# MONEX Retail Investor Survey



MONEX 個人投資家サーベイ 2013年5月調査

マネックス証券株式会社  
www.monex.co.jp

個人投資家の皆様の相場環境に対する意識調査のため、2013年5月17日～5月20日にマネックス証券に口座をお持ちのお客様向けにアンケートを実施しました。ご回答くださった皆様には、ご協力に感謝いたします。誠にありがとうございます。今、個人投資家の皆様が、相場をどのようにとらえているのか、調査結果をまとめました。

「MONEX 個人投資家サーベイ」は、個人投資家の相場環境に対する意識調査として毎月アンケートを行い、その調査結果をまとめたものです。2009年10月に第1回サーベイを行い、月次で公表しております。

(※2011年3月は東日本大震災の状況を鑑み、アンケートを実施しておりません。)

また、2011年6月より、グループ企業であるトレードステーション証券（米国）、マネックス BOOM 証券（香港）の個人投資家の皆様にも、四半期ごとに同様のアンケートを行い、調査結果を「MONEX グローバル投資家サーベイ」として提供しております。

## ■ 調査結果の要約

### (1) 米国株 DI<sup>(※)</sup>、中国株 DI が大幅上昇 (グラフ 1)

【日本株 DI】(2013 年 4 月) 69 → (2013 年 5 月) 67 (-2)

【米国株 DI】(2013 年 4 月) 40 → (2013 年 5 月) 65 (+25)

【中国株 DI】(2013 年 4 月) -46 → (2013 年 5 月) -27 (+19)

4 月から 5 月にかけて、日経平均株価が上昇している中、日本株 DI は小幅な減少にとどまった。一方、米ダウ平均が高値を更新し投資家心理の改善を反映し、米国株 DI は 25 ポイントと大幅に上昇。また、中国株 DI も約 20 ポイントの大幅な上昇となった。

(※)「上昇すると思う」と回答した割合 (%) から「下落すると思う」と回答した割合 (%) を引いたポイント

### (2) 業種別魅力度ランキングは「自動車」が堅調 (グラフ 3)

個人投資家が「魅力的であると思う業種」ランキングでは、「自動車」が 2 ヶ月連続の首位となった。「機械」は前回調査 (2013 年 4 月実施) まで 3 ヶ月連続で順位を下げたが、円安を追い風に 9 位から 7 位へと順位を上げた。一方、順位を下げた業種は「銀行」(4 位→6 位)、「通信」(7 位→8 位)、「小売」(8 位→9 位)。

### (3) 今後 3 ヶ月程度の米ドル/円相場の見通しは、ほぼ変化なし (グラフ 4)

今後 3 ヶ月程度の米ドル/円相場の見通しは 2012 年 11 月時の調査からほぼ変化がなく、7 ヶ月連続で円安を見込む向きが圧倒的多数を占めている。

### (4) 個人投資家が注目するトピックは、米国の金融政策と日本の金利動向への注目度が急上昇 (グラフ 6)

個人投資家が注目するトピックについて、「日本の企業業績」が前回調査から引続き高い関心を集めた。これに加えて、直近の FRB の出口戦略をめぐる議論や、今月に入り日本の名目金利が上昇していることを受け、「米国の金融政策」、「日本の金利動向」への注目度が急上昇となった。

### (5) 米ヘッジファンド サード・ポイントの株主提案については見解が分かれる (グラフ 7)

今回の調査では、米国の投資運用会社 Third Point Offshore Investors Limited (以下「サード・ポイント」) が 2013 年 5 月 14 日に発表したソニーの映画・音楽事業分離提案の評価について問う設問を追加した。サード・ポイントの株主提案については、評価する・評価しないと答えた

人数がほぼ同数となり、日本の個人投資家の見方は分かれた。

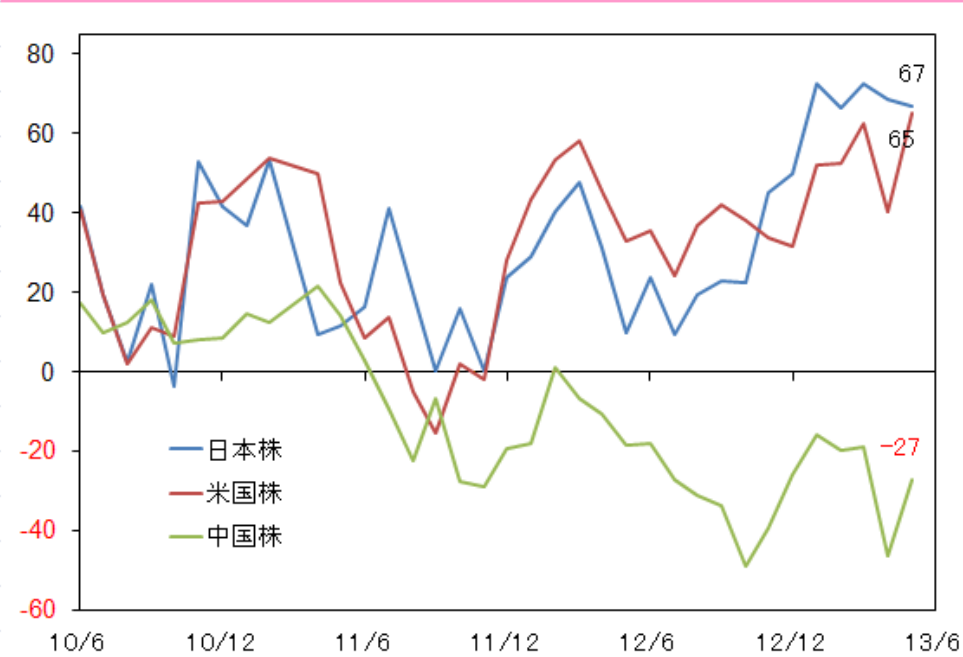
(6) 新たな投資対象として、シェールガスについて (グラフ 8)

サード・ポイントの株主提案と共に、新たな投資対象としてシェールガスに興味があるか否かをたずねました。「興味がある」との回答が約 6 割となり、多くの個人投資家がシェールガスを新たな投資対象先として注目していることがわかった。

■ 調査結果

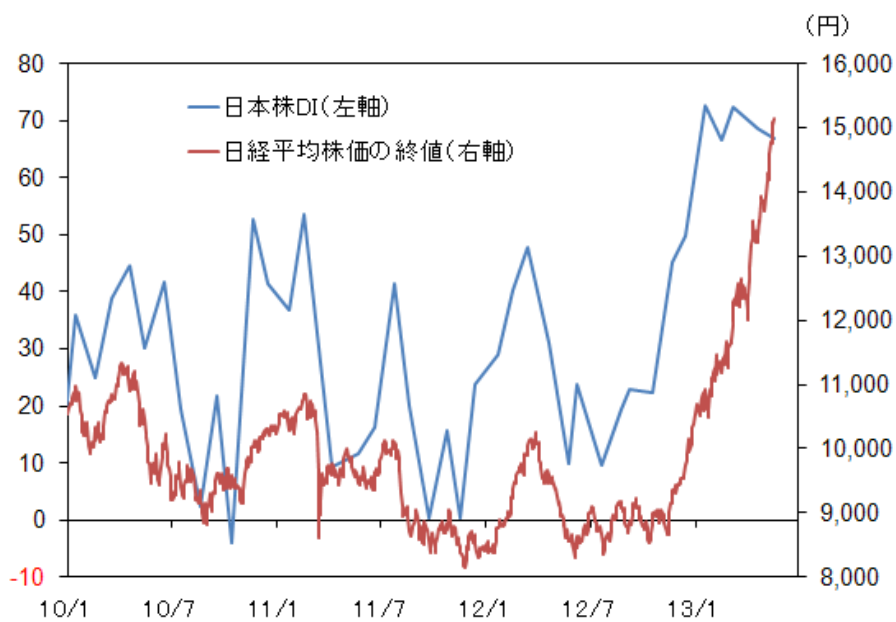
1. 株式市場を取り巻く環境について

グラフ1: 今後3ヶ月程度の株価予想



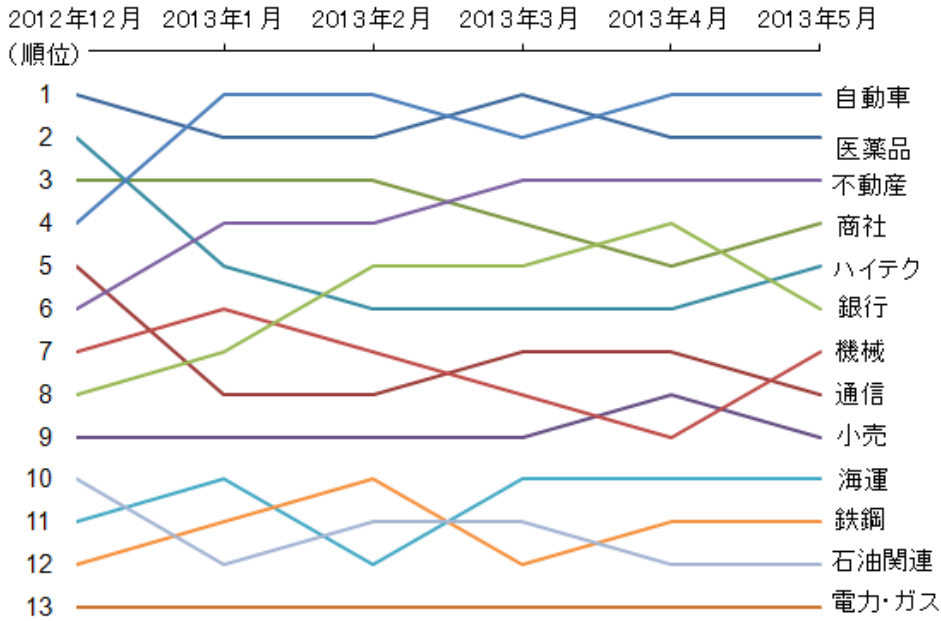
(出所) マネックス証券作成

グラフ2: 日経平均株価(終値)と日本株DIの推移



(出所) マネックス証券作成

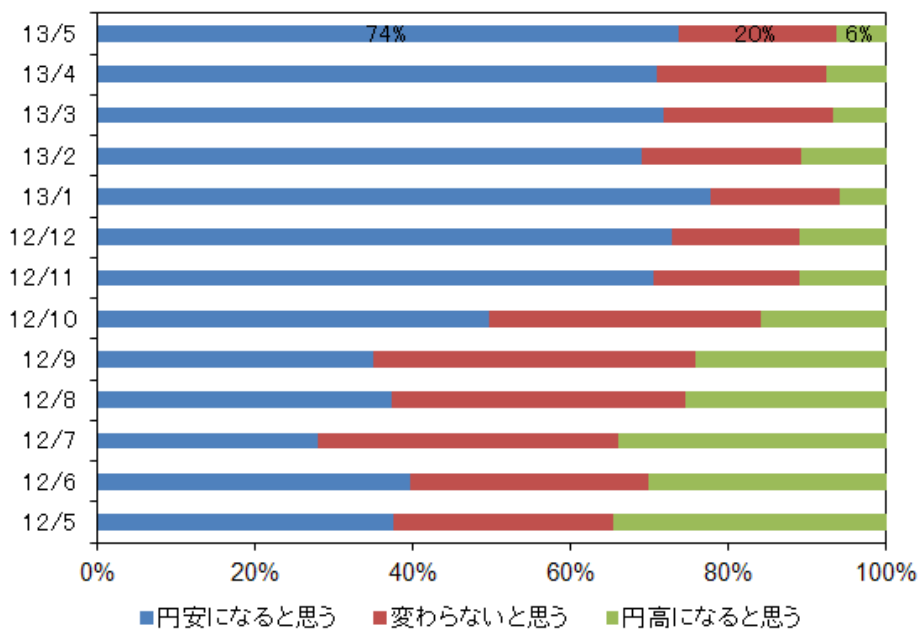
グラフ3: 業種別魅力度ランキング



(出所) マネックス証券作成

## 2. 為替市場について

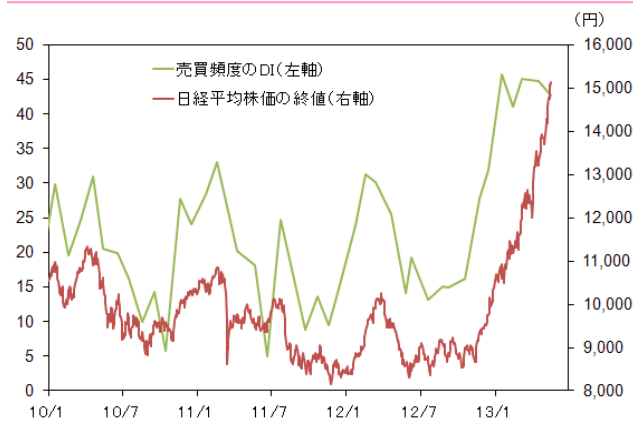
グラフ4: 今後3ヶ月程度の米ドル／円相場予想



(出所) マネックス証券作成

### 3. お客様の日本株取引について

グラフ5: 今後3ヶ月の投資意欲について



(出所) マネックス証券作成

### 4. 注目するトピック

グラフ6: 注目するトピック (前月からの変化)

	日本	米国	欧州	中国 (香港含む)	新興国 (中国除く)
企業業績	0.3%	2.3%	3.0%	0.3%	0.6%
マクロ経済	-0.6%	4.0%	1.0%	-1.4%	1.9%
為替動向	-0.2%	5.1%	-1.5%	0.9%	1.6%
金利動向	5.2%	4.1%	0.7%	1.0%	0.7%
金融政策	-1.1%	6.7%	-1.9%	0.2%	1.2%
政治・外交	0.1%	0.3%	-4.2%	0.2%	0.1%

(出所) マネックス証券作成

グラフ6-2: 注目するトピック

	日本	米国	欧州	中国 (香港含む)	新興国 (中国除く)
企業業績	85.2%	43.5%	13.1%	10.2%	10.5%
マクロ経済	58.9%	54.8%	27.1%	20.4%	19.4%
為替動向	70.5%	62.9%	28.9%	6.6%	14.4%
金利動向	70.0%	41.7%	21.6%	5.5%	9.2%
金融政策	75.9%	50.1%	29.6%	10.9%	9.2%
政治・外交	71.7%	48.8%	27.5%	38.8%	20.3%

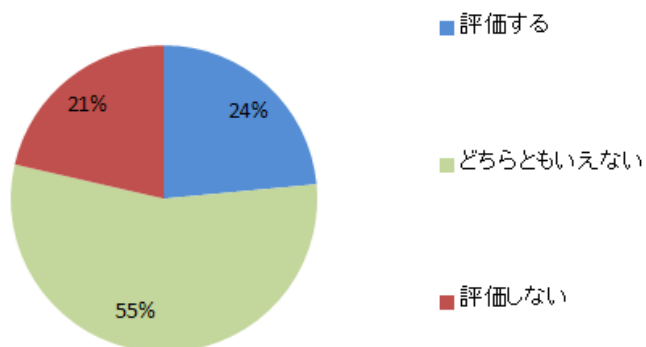
(出所) マネックス証券作成



(数字は各地域で当該選択肢にチェックを入れた回答者の割合)

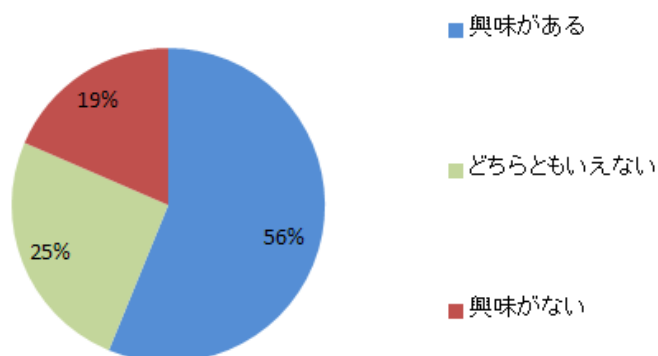
## 5. 米ヘッジファンド サード・ポイントの株主提案について

グラフ7: 米ヘッジファンドのサード・ポイントによるソニーの映画・音楽事業分離提案はどう思いますか？



## 6. シェールガス関連の投資について

グラフ8: シェールガス関連の投資に、興味がありますか？



(出所) マネックス証券作成

## ■総括（マネックス証券 チーフ・ストラテジスト 広木 隆）

今回の個人投資家サーベイを見て、「さすが！」だと思った。マネックスのお客様は目のつけドコロが分かっておられる。相場を見る目が確かだと、頼もしく思った。「4.注目するトピック」では、日本の企業業績が断トツの注目度。日本株に投資するお客様が多いため当然と言えば当然だが、企業業績への注目度が一番高いのはうれしかった。僕も「株価は業績で決まる」と常々述べているが、お客様のほうでも基本をしっかりと押さえられている。

業績を見るのは株式投資の基本だが、それ以外にも気を配るべき点がある。「4.注目するトピック」の<前月からの変化>を見ると、この1カ月の間でもっと注目度が高まったのは米国の金融政策、次が日本の金利動向だった。これも当を得ている。リーマンショック以降、米国の連邦準備理事会（FRB）が続けてきた量的緩和を縮小、もしくは停止する可能性が取り沙汰されている。いわゆる「出口戦略」の議論である。足元、発表されている米国の経済指標は強弱入り交じっており、経済データからはFRBの出方を図るのは難しい。地区連銀総裁など要人発言も緩和継続・打ち切りで割れている。本稿執筆時点では5月22日のバーナンキ議長の議会証言が明らかになっていないが、おそらくそこで当面のスタンスが示されることになるのだろう。

国内では長期金利の上昇が顕著になってきた。「異次元緩和」で日銀が長期債を買うと宣言しているにもかかわらず、長期債が売られ金利が上昇しているのである。これは投資家が国債を手放し始めたことを意味する。これまでのデフレ不況の過程で、資金は国債市場に偏在していた。それがようやく瓦解を始めたのである。問題は、その国債市場に偏在していたマネーの行方である。株式市場や不動産市場などがまずその皿になるだろう

米国の「出口戦略」の時間軸は分からない。しかし、いずれにせよ歴史的な低水準にある米国金利は上昇するだろう。日米ともに国債バブルが終わろうとしている。それが全世界的な株高の背景だ。注目トピックでもっとも前月からの変化が大きかった項目の二つ、米国の金融政策と日本の金利動向は、今の株高を考える根幹的な要素だ。そこをしっかりと個人投資家は見つけていたのである。

今回も皆様のご協力により有益な調査結果を得ることができました。皆様の資産運用を考える一助となれば幸いです。

（マネックス証券 チーフ・ストラテジスト 広木 隆）



## ■調査の概要と回答者の属性

調査方式： インターネット調査  
 調査対象： マネックス証券に口座を保有している個人投資家  
 回答数： 1,419 件  
 調査期間： 2013年5月17日～5月20日

### 【性別】

男性	女性
82.7%	17.3%

### 【年齢】

未成年	20代	30代	40代	50代	60代	70歳超
0.4%	4.1%	17.8%	30.6%	22.8%	16.6%	7.8%

### 【金融資産】

500万未満	500万 ～1000万	1000万 ～2000万	2000万 ～5000万	5000万 ～1億	1億以上
25.1%	22.6%	18.5%	21.7%	8.5%	3.6%

### 【売買頻度】

デイトレ	週に数回	月に数回	数ヶ月に1回	それより少ない
6.0%	21.4%	30.4%	21.6%	20.5%

### 【株式投資のご経験】

1年未満	1年～5年	5年～10年	10年以上
8.2%	19.7%	28.3%	43.8%

本情報は当社が実施したアンケートに基づいて作成したものです。

- ・ 本情報は売買のタイミング等を反映したものではありません。
- ・ 当社は記載した銘柄の取引を推奨し、勧誘するものではありません。
- ・ 当社は本情報の内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。
- ・ 銘柄選択や売買タイミングなどの投資にかかる最終決定は、お客さまご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

## マネックス証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第165号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会